



地域コミュニティとの関わり

羽後町地域おこし協力隊
崎山健治

地域での活動



インターンシップのコーディネーターとして企業の事業・組織支援、学生のキャリア教育（中間支援）



移住者団体へ参画し移住促進活動（内部活動）



地域がおこなう地域づくり支援（地域を外から支援）

仙道地区の概要



昭和30年→約3,000人

平成30年3年末→980人 (前年比-61)
 世帯数356世帯 (前年比-10)
 (内、高齢者のみ83世帯)

人口内訳	人数	比率
0～14歳	68人	6.9%
15～64歳	511人	52.2%
65歳以上	401人	40.9%

仙道地区について



会長 土田房美氏



仙道地区振興会

- 仙道地区全 20 集落からなる地域の振興会
- 他都市では町内会・自治会と呼ばれている地縁団体。
- 地域のお祭りや運動会などのコミュニティ活動をはじめ、安全・安心なまちづくり、環境美化活動（県道の草刈りを受託し地域で取組む）など、地域活動の基礎的な組織として重要な役割を果たしている。
- 公民館事業を地域で受託し、窓口職員を地域の子育て世代の主婦から選出、振興会の事務員も兼務している。

仙道地区について

地域の伝統芸能、JA、介護施設、こども園、社会福祉協議会などとも連携



仙道地区拠点の核



- 元は J A 購買部の建物
- 平成 1 4 年
翌年に J A 購買部の閉鎖が決定
→地域に店舗がなくなる不安の声
- 平成 1 5 年
住民有志等が運営委員会を設立
地域からの出資を募る
運営委員会による運営開始



お互い様スーパーへリニューアル



- 平成19年『株式会社仙道てんぽ』を設立
順調に運営してきたが・・・
- 平成26年頃から売上が年々減少、設備も老朽化、今後の運営維持が不安、これまでの運営方法だけでは、いずれ限界に・・・
- 平成27年、仙道てんぽ関係者と仙道地区振興会が今後の運営について協議し、県の補助事業である「お互いさまスーパー創設事業」に申請！



秋田県内の「お互いさまスーパー」第1号店として、「仙道てんぽ」を、リニューアルオープン

仙道てんぽの販売商品



酒類、飲料、菓子、調味料、肉、野菜（産直品）、日配商品、アイスクリームなど、スーパーマーケットと同様に約1000品目を取り揃え

仙道地区振興会としての取り組み

地域のアンケート調査結果からも・・・

問8 現在の困りごと・不便なこと(男女別・年代別)

項目	16歳～19歳				20歳～59歳				60歳以上				合計	困りごと 順位
	男	女	不明	計	男	女	不明	計	男	女	不明	計		
	8	12	5	25	84	85	19	188	103	116	18	237		
バス等交通機関がない	4	8	4	16	18	25	6	49	22	48	6	76	141	3
買い物などの日常生活が不便	5	9	3	17	26	39	9	74	28	39	7	74	165	2
病院や医療機関が遠い	3	7	2	12	14	22	2	38	20	27	2	49	99	4
保育所や子育てセンターが遠い	0	1	0	1	3	1	1	5	0	0	0	0	6	9
高齢者・障がい者施設が遠い	0	1	0	1	2	4	2	8	3	4	0	7	16	7
雪よせや雪おろし作業	1	5	3	9	44	48	10	102	55	53	4	112	223	1
後継者がいない	0	3	1	4	9	7	4	20	22	20	2	44	68	5
家や地域の慣習になじめない	0	0	0	0	1	8	3	12	1	1	0	2	14	8
地域のコミュニケーションが不足	0	1	1	2	9	8	6	23	6	5	1	12	37	6
その他	0	1	2	3	5	5	1	11	1	1	0	2	16	7
計	13	36	16	65	131	167	44	342	158	198	22	378	785	



負担となっている雪下ろし



特に冬場は買物が困難に



地域交通は乗合タクシーと病院送迎バス(週2回)のみ

過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業

過疎集落等の現状と課題

- 過疎地域等においては、小規模化、高齢化により、維持困難な集落が増加
 - ・ 空き家の増加、商店の閉鎖、公共交通の利便性低下などの住民生活に関する問題
 - ・ 働き口の減少、耕作放棄地の増大などの産業基盤に関する問題
- 集落機能を引き続き維持するのみならず、中長期的に持続可能な集落とするための活性化策が課題

集落ネットワーク圏の必要性

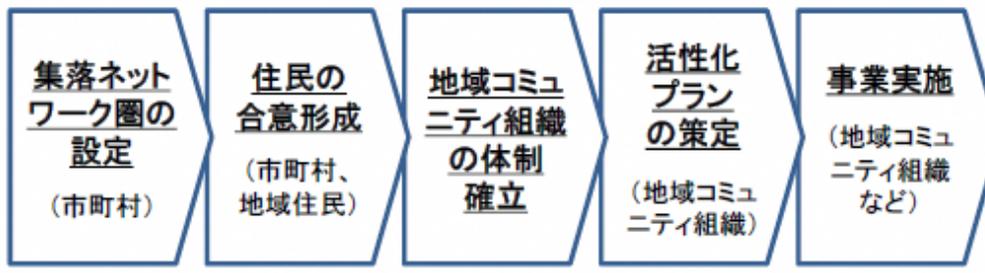
個々の集落では様々な課題の解決が困難なケースが増加

より広い範囲で、基幹集落を中心に複数集落をひとつのまとまりにして、集落を活性化する取組が必要

集落ネットワーク圏施策：2つの視点

- (1) 住民の「くらし」を支える
生活サポートシステムの構築
- (2) 住民の「なりわい」を継承・創出する
活動の育成

集落ネットワーク圏の形成に向けて



過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業の概要

- | | |
|-------------------|--|
| (1) 事業主体 | 集落ネットワーク圏を支える中心組織
(地域コミュニティ組織) |
| (2) 交付額 | 1事業当たり 2,000万円以内 |
| (3) 平成28年度概算要求額内訳 | 900,000千円 |
| (4) 対象事業 | 集落ネットワーク圏の形成に係る取組及び
活性化プランに基づく活性化のための事業 |

<具体的事業の例>

- 高齢者サロンの開設
 - 雪下ろし、雪よせ
 - ボランティアチェーン等と連携した買物機能の確保
 - デマンドバス・タクシーの運行
 - 伝統芸能や文化の伝承
 - 特産品の開発や6次産業化による高付加価値化
 - 田舎暮らし体験等による都市との交流産業化
- 等

地域が抱えている課題解決策のほとんどが事業対象となる。

仙道地区ネットワーク圏形成支援事業の概要

① 雪下ろし支援体制構築事業



- ・安全対策用具や除雪機等の整備
- ・地域住民から、雪下ろし作業員を募集し作業グループを構築
- ・仙道公民館（仙道地区振興会）を窓口として、地域の高齢者などに支援事業の開始を通知
- ・平成29年12月より、高齢者等雪下ろし支援事業をスタート
- ・作業賃金の一部を、仙道てんぽで利用できる地域通貨として、仙道てんぽ利用促進につなげる

仙道地区ネットワーク圏形成支援事業の概要

② みんな参加の地域サロン事業



- ・仙道てんぼ裏の一部を改修し、サロンスペースを整備
(平成30年2月完成)
- ・羽後町社会福祉協議会仙道支会と仙道地区振興会が主体となりサロンを運営
- ・従来のサロンも継続し、毎週水・土曜日に開催
(社協仙道支会ボランティアスタッフにて運営)
- ・エンカサイズで健康維持、輪投げ、ビデオ鑑賞会、カラオケ会なども実施

仙道地区ネットワーク圏形成支援事業の概要

③ 地域資源を活かした特産品開発事業



- ・平成29年9月から1月にかけて4回の地域住民向けに
特産品開発研修を実施
- ・仙道てんぽ裏の一部を改修し、漬物の加工所を整備
(平成30年2月完成)
- ・地域みんなが利用できるよう、利用窓口を仙道てんぽに設置
- ・山菜の水煮やいぶりがっこなど、地域で根付いた特産品を試作～開発
- ・本年度、本格化し都市部への販売も検討中

仙道地区ネットワーク圏形成支援事業の概要

④ 仙道地区活性化プラン策定事業



・地域の課題や魅力を整理するため、平成29年9月に計3回の地域住民によるワークショップを実施

・地域から選ばれたプラン策定委員による委員会を計6回実施し地域を活性化するプランを策定



6. 仙道地区「活性化プラン」

産業と雇用のある仙道	産業	事業名
	産業	「親子×名人による農業体験会」事業
	産業	地域農家の後継者が少なく、農家への関心が落ちてきている。農業体験を通じ、地域の心人の後継者子どもたちが農家への関心を育み、農家の継承につなげたい。
賑わいと交流のある仙道	産業	仕事と収入のある仙道づくり事業
	伝統文化	伝統や文化の継承保存事業
	観光	地域の資源を活かした交流人口拡大事業
	スポーツ	スポーツを通じた世代間交流と健康づくり事業
	福祉	住んで楽しい地域づくり推進事業

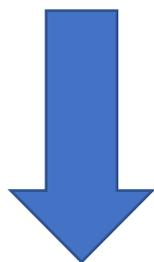
5

仙道地区住民が地域づくりに取り組む思い

“原動力”となる地域への思い！

これからもずっと住み続けられる
“おらほの仙道”地区を残すために・・・

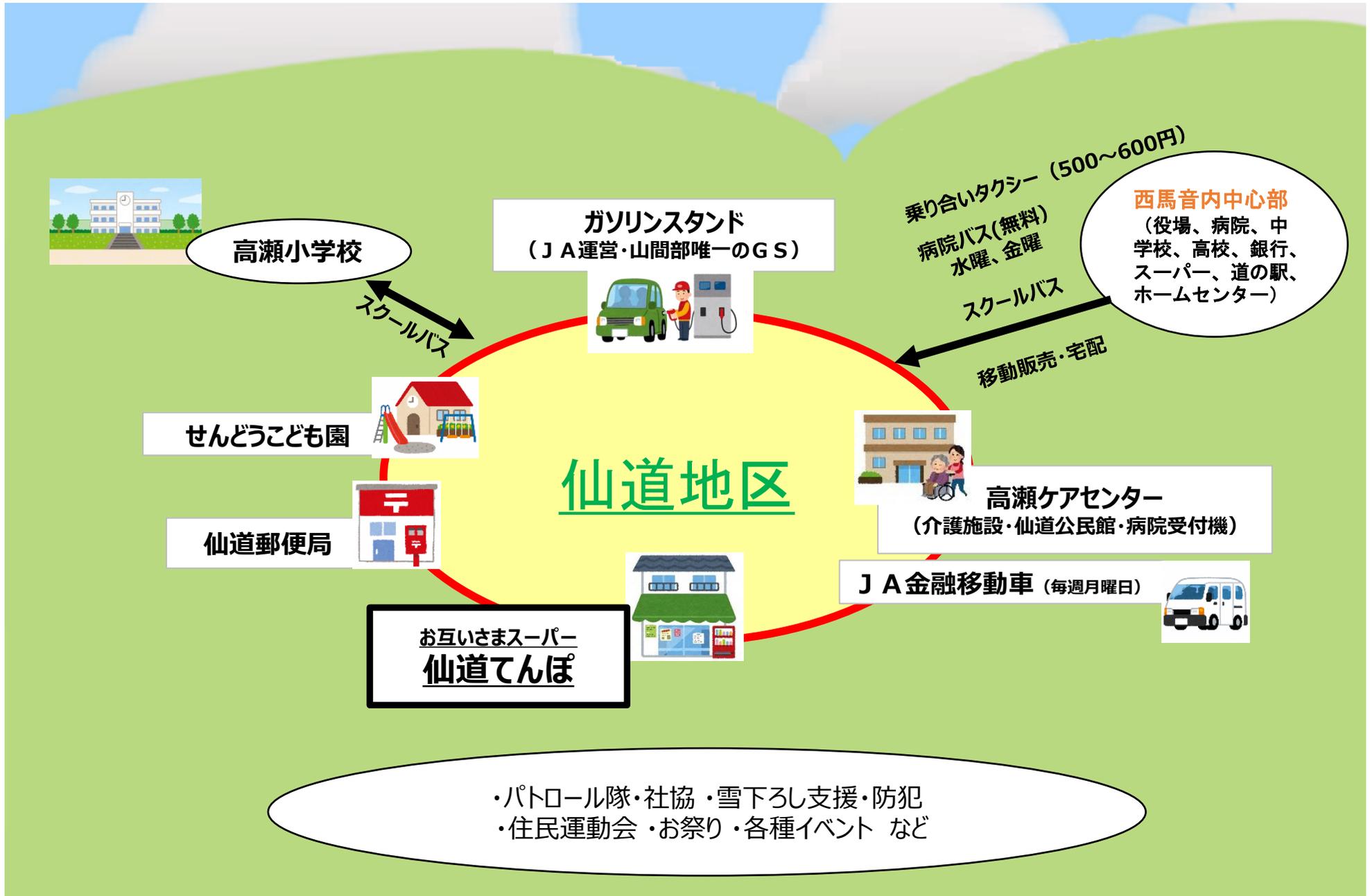
これから仙道地区で育っていく
子供や孫たちのために・・・



「まず、やってみるべ！」



仙道地区の小さな拠点づくり



地域づくりに必要とされること

三者が一緒に取り組むことで、より良い地域づくりが可能に

